

グループ名 ・代表者名	モペツ・サンクチュアリ・ネットワーク 代表 畠山 敏	助成金額	40万円
連絡先など	小泉 雅弘（札幌事務局） koizumi@sapporoyu.org		
助成のテーマ	産業廃棄物最終処分場建設がモベツ川水系の野生サケの遡上・産卵に及ぼす影響に関する市民調査		

【調査研究・研修の概要】(調査研究・研修のねらい・手法・成果など)

当ネットワークは、紋別在住のアイヌ漁師である畠山敏氏の思いを共有したメンバーによって、地域の自然環境を保全・活用しながらアイヌ民族の権利回復をうながし、持続可能な共生社会を実現していくために結成された。当ネットワークの結成と前後して、モベツ川支流の豊岡川水源域における産業廃棄物最終処分場の建設問題が浮上、モベツ川および豊岡川で遡上・産卵する野生種である可能性の高いサケに与える影響が懸念されたため、河川環境調査を実施した。

水質調査については、モベツ川およびその支流である豊岡川、元丘川の計7地点で実施、また9月には豊岡川にて底生生物調査を実施した。この結果、産廃施設操業前の豊岡川の水質は良好であり、底生生物調査では北海道レッドデータ希少種の存在も確認された。一方、既存の廃棄物処分場が上流部にある元丘川や、モベツ川中流の金山開発による沈殿池からの排水が漏れ出ている地点では河川の汚染が確認され、流域における廃棄物の存在が河川環境に悪影響を及ぼしていることが確認された。

【調査研究・研修の経過】(取り組みの具体的な経過：主要な出来事のみ)

2011年7月：水質調査（モベツ川水系7地点）
 同年9月：水質調査（モベツ川水系7地点）底生生物調査（豊岡川1地点）
 同年11月：水質調査（モベツ川水系7地点）水況調査（豊岡川全流域）
 聞き取り調査（紋別市博物館佐藤館長／畠山敏氏）
 2012年2月：オホーツク・紋別ESDセミナー「海と大地の声を聞く」
 （開催協力）
 3月：公害防止協定の締結

問題となっている場所の地図あるいは写真など（あれば）



モベツ川（北海道紋別市）

【今後の展望など】

今後は、産廃処分場の操業開始が想定されることから、河川環境調査を継続しその影響を調べると共に、聞き取り・文献調査などを通じて地域のアイヌ民族の歴史・文化や環境との関わりについて可視化し、アイヌ民族の権利回復の必要性が広く社会に認知されるよう発信していきたい。

会計報告書の概要（金額単位：円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	札幌 紋別往復、東京 紋別往復	171,200	170,000		1,200
機材・備品費	水質モニター計、水生生物調査器材	155,264	150,000		5,264
印刷費	報告書印刷、写真・映像制作	51,930	50,000		1,930
外部委託費	河川水質分析委託費	20,000	20,000		0
その他	事務・通信費	21,141	10,000		11,141
合 計		419,535	400,000		19,535

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・モペツ・サンクチュアリ・ネットワーク ウェブサイト <http://mopetsanctuary.blogspot.jp/>
- ・報告書『アイヌ民族の権利回復と持続可能な地域づくり オホーツク・紋別におけるESDの取り組み 2009 - 2011』（編集・発行さっぽろ自由学校「遊」）
https://docs.google.com/file/d/0B3bPIq3d7V_ydU0ydXMwLUxxY0E/edit

産業廃棄物最終処分場建設がモベツ川水系の
野生サケの遡上・産卵に及ぼす影響に関する市民調査

モベツ・サンクチュアリ・ネットワーク
報告:小泉 雅弘

地域の概要～北海道・紋別市～

- 地名 アイヌ語の「モ・ベツ」(静かに流れる川)が名前の由来
- 位置 北海道北東部、オホーツク海沿岸のほぼ中央
- 人口 約2万5千人
- 産業 豊かな自然環境を活かした漁業、農・林業、観光業などが盛ん。



背景①

アイヌ民族の権利をめぐる動向

- 2007年9月 「先住民族の権利に関する国連宣言」採択
- 2008年6月 衆参両院にて「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択
→有識者懇談会が1年後に報告書を提出
- 2009年8月 内閣官房にアイヌ総合政策室設置
- 2010年1月～ アイヌ政策推進会議の開催



背景②

畠山敏さんの思いと行動

- 紋別在住、漁師
- 1988年より、北海道アイヌ協会紋別支部長
- モベツ川河口部において、カムイチェップノミ(サケを迎える儀式)を毎年開催
- イルカ漁の経験に基づき、アイヌ民族生存捕鯨の復活をめざす



背景③

ESDを通じた周囲の関わり

- さっぽろ自由学校「遊」
– ESD(持続可能な開発のための教育)関連事業の中で畠山さんと出会い、紋別における取組みをESDモデル事業として実施
- EPO北海道、PARC自由学校、ESD-J、市民外交センターなどが個々の事業や活動に協力
- 2010年2月 地域ワークショップin紋別「持続可能な紋別に向けて」(主催:さっぽろ自由学校「遊」、ESD-J)
→地域の生態系の保全・活用をアイヌ民族の権利回復と結びつけながら進めていくビジョンを共有、その実現のためのネットワークが呼びかけられる。
(モベツ・サンクチュアリ・ネットワークの形成)

経緯①

産業廃棄物最終処分場の建設問題

- モベツ川支流水源域の山中に、産業廃棄物の最終処分場の建設計画が浮上
- 事業主体 (株)リテック
- 周辺住民や畠山さんから地元のアイヌ民族から反対の声があがる。



↑産廃処分場の建設予定地

経緯②

産廃建設に対する提言・要請活動

- 周辺住民、アイヌ協会紋別支部らによる紋別市への意見書や抗議文の提出
 - 2009年12月、住民有志による反対署名提出
 - 2010年3月、アイヌ協会紋別支部による抗議文提出
- ネットワークによる北海道へのアプローチ
 - 2010年6月・8月、道知事への連名の要請文提出
 - 2010年9月、緊急集会「母なるモベツ川を汚さないで」開催(札幌市にて)
- 市民外交センターによる国連へのアプローチ
 - 2010年4月、国連先住民族問題常設フォーラムの声明
 - 2010年9月、国連人権理事会での声明

経緯③

野生種と思われるサケの遡上

- 2010年11月、豊丘川サケ遡上緊急調査
→遡上の様子を撮影・編集し、ユーチューブにアップ(「君はワイルドサーモンを知っているか I・II」)



経緯④

公害審査会への調停申請

- 2011年3月4日、道の公害審査会に(株)リテックに対しての調停申し入れ
 - 申請人: 畠山敏
 - 申請代理人: 市川守弘(弁護士)
- ①サケの実態と産廃処分場が与える影響に関する十分な調査を行うまで建設を中断すること
- ②施設が稼動した場合、サケの生息に影響する物質の排出状況を調査・報告することを求める。



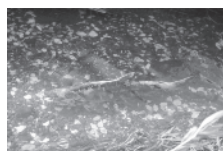
これまでの取り組みから 見えてきた課題

- 地域住民の理解と参加の不足
 - アイヌ民族の権利に対する理解も産廃建設の影響に対する理解も地元で広がっていない
- 科学的根拠(説得力)の不足
 - 思いや懸念を裏付ける科学的データの不在



住民参加型の地域調査の必要性

調査研究のねらい



- 以下の点について明らかにすること
 - 野生サケの遡上、産卵の立証
 - 野生サケが生息できる河川環境かどうか
 - 産廃処分場の建設工事や廃水放流がサケの遡上・産卵にもたらす影響
- 地域住民や紋別市民が主体的に調査を行うことで、地域の自然環境や地域に暮らすアイヌ民族への理解を広めていくこと

調査研究の内容



- ①モベツ川水系の河川環境調査
 - 河川の水質・底質及び流況等の調査
 - 水生生物の生息調査
 - サケ・マスの遡上調査
- ②モベツ川周辺地域の歴史・文化についての調査
 - 紋別におけるアイヌの歴史・文化に関する文献調査
 - 地域のアイヌ民族、関係者からの聞き取り調査

調査活動の実施

- モベツ川水系7ポイントにおける水質調査
– 2011年7月、9月、11月
- 豊岡川における底生生物調査
– 2011年9月
- 豊岡川の水質・水況調査
– 2011年11月
- 紋別アイヌについての聞き取り調査
– 2011年11月

市民調査の結果から ①

- 産廃処分場の処理排水が流される予定の豊岡川の現在の水質は概ね良好
– 23種以上の底生動物の生息が確認され、北海道レッドデータ希少種に指定されているゴマフトビゲラ属の一種も含まれている。
- 一方、既存の廃棄物処分場が上流にある元丘川の下流やモベツ川中流の金山開発による沈殿池の排水が漏れ出ている地点では、電気伝導率及びCODの数値が高く、河川が汚染されている
– これまでの流域の開発行為や廃棄物の蓄積が河川に悪影響を及ぼしていることが確認された。

市民調査の結果から ②

- 11月の豊岡川調査では、前年度の観察に引き続き、遡上したサケの個体を確認
– サケの自然遡上・自然産卵が定着している
- 紋別市博物館の佐藤館長や畠山敏氏自身からの聞き取り調査から
– モベツ川流域のアイヌ語地名
– モベツ川流域におけるアイヌ居住の連続性



先住権の主張に向けての裏づけ

市民調査の間接的な効果

- 公害防止協定の締結(2012年3月)
– モベツ川におけるサケの漁獲権という先住権を根拠にした申請人(畠山敏氏)の主張に一定の理解が示され、公害防止協定が締結される。
- 他地域との連携・交流
– 同様の課題を抱えるタ張からのメンバーが調査に協力。今後の連携も期待できる。

今後に向けて～課題と展望～

- 産廃処分場の操業開始(?)
– 河川環境調査の継続(操業前との数値比較)
– 市民による監視の強化
- サケの野生種の同定
– 専門家の協力が不可欠
- 地域のアイヌ民族の歴史・文化・生活に関する調査の本格化
– 当事者・関係者からの聞き取り／文献にあたる
– 成果の可視化
- 地元市民、関係者の理解を広げる
– 調査活動への地元住民の参加
– 関係諸機関との協力関係の構築



ありがとうございました。

Mopai Sanctuary Network